参考資料1

諸外国におけるゲノム編集家畜の取扱い

国・地域	取扱い	参照
米国	動物用医薬品としての取扱い カテゴリー1（非食品）：承認申請不要、事前確認不要 カテゴリー2（従来育種で開発可能なもの等）：データの事前確認後、承認申請は不要 カテゴリー3（動物の疾病に影響を与えるもの等）：承認が必要	Heritable Intentional Genomic Alterations in Animals: Risk-Based Approach Guidance for Industry #187A https://www.fda.gov/media/74614/download
EU	遺伝子組換え食品としての取扱い 上市前の承認が必要	Regulation (EC) No 1829/2003 of the European Parliament and of the Council of 22 September 2003 on genetically modified food and feed
オーストラリア ニュージーランド	novel DNAが含まれないものは遺伝子組換えの定義から除外され、上市前の承認は不要	Approval Report – Proposal P1055 Definitions for gene technology and new breeding techniques https://www.foodstandards.gov.au/sites/default/files/2025-06/01_P1055_Approval%20Report.pdf
カナダ	製品がnovel（新規）である場合には上市前の認可が必要であるとされているが、ゲノム編集動物について明示した規定はない	CFIAのWEBサイト https://inspection.canada.ca/en/plant-health/plant-varieties/novel-traits/gene-editing-techniques
英国	精密育種生物としての取扱い 上市前の許可が必要 Tier 1（従来育種に近く、安全性リスクがよく理解されているもの）：事業者主体の安全性評価 Tier 2（新規性のあるもの、栄養・毒性・アレルゲン性に影響のある変化があるもの等、リスクが完全に理解されていないもの）：食品基準庁（FSA）による安全性評価	Precision bred organisms: application guidance https://www.gov.uk/guidance/precision-bred-organisms-application-guidance